



# 白門板橋

2014. 9. 15 VOL.42

編集  
発行

中央大学学員会 東京板橋区支部  
〒173-0031 東京都板橋区大谷口北町7-5 TEL03-3956-5330



## ■巻頭言

### 五代目支部長に選ばれて

支部長 池田亘利



この度、六月二五日の定時総会におきまして、石塚支部長の後を継いで支部長の大役を任命されました池田亘利です。

何分いたらない点がありますので、皆様のご協力とご指導によりまして一生懸命努力していきたいと思っております。

支部活動の具体的な事項について、今年度の事業計画に基づいて進めてまいります。これは私に課せられた責任であり、義務であると信じます。

当支部は、昭和六二年一二月に支部結成準備発起人会が開かれ、その発起人承諾名簿には、私はまだ四六歳でありましたが、末席を汚しておりました。

初代支部長は田永嘉彦氏、二代目は濱 巖氏、三代目は小日向孝介氏、四代目は石塚輝雄氏が就任なさいましたので、私は五代目支部長ということになります。あれからいつの間にか、早くも二七年近い年月が経過いたしました。

歴代の支部長の皆様は、素晴らしい方々でした。そういった先輩の皆様が築き上げてきた、東京板橋区支部の名を汚さぬよう頑張りたいと思っております。

幸いにも幹事長、副支部長が六名身近におられますので、私のいたらぬ所を十分に埋めていただき、当支部の発展の為に、その第一歩を踏み出したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

簡単ではございますが、これを持ちまして支部長就任の挨拶にかえさせていただきます。

## 支部のニュース

### ■年忘れの大宴会

平成25年12月14日(土)、支部恒例の忘年会が「笹寿司」で開かれました。

寒つばきが所どころに咲いて、昼間の晴天の余韻が残る夕方の午後4時半頃から参加者が三々五々集まりはじめ、午後5時、担当・赤塚の猪橋進一ブロック長が開会を宣言。

続いて平山惟美副支部長が、「今日は石塚支部長が欠席のため、私が代わって挨拶いたします。その昔、来宮良子(きのみやりようこ)が「忘却とは忘れ去ることなり」(注・巡ラジオドラマ「君の名は」冒頭のナレーション)と語りました。今日の忘年会で、この一年の憂さを忘れましょう」と挨拶。

続いて、赤塚ブロックの長老、関上裕次氏が乾杯の音頭。

今回の世話人、猪橋氏と栗原三郎氏から「皆さん、どうかごゆるりとお寛ぎください」との一声の後、次々とお酒が注がれます。

お座敷、鍋料理、そして豊富な

お酒。本来の昔ながらのお座敷宴会で、もうたいへんなにぎわい。

すきつ腹のおなかも、ある程度ふくれた頃、マイクは猪橋氏から佐藤 義カラオケ同好会会長にバトンタッチ。



▲熱唱する大野事務局長

佐藤氏は、場数を踏んだ大ベテラン、歌い手が途切れると自らも歌って間をつなぎ、歌合戦は大いに盛り上がりました。

終わりに近く「笹寿司」の店主が、伴奏なしで民謡を唄いはじめました。更には尺八まで吹く芸のこまかさ。民謡大会で優勝した実力者とか。お開きは、大久保隆輔氏が「私は、80歳を超えておりますが、生きている間は、大いに楽しみたい。皆さんも健康で元気があって欲しい」と挨拶。

参加人数29人、年忘れの大宴会でした。(大野正浩)

### ■新春の集い

当支部の新年会は、平成26年1月25日(土)、板橋区立文化会館で、会員50人参加のもと、午後6時より開催されました。

初めに、石塚支部長代理の平山惟美副支部長が「昨年は、支部創立25周年記念行事を無事済ませました。支部の会員が高齢化していく中、6月の役員改選では、昭和40年代の世代で新しい支部を作って欲しい」と挨拶されました。



▲平山惟美副支部長の挨拶

乾杯は、小日向孝介氏の音頭。植村冒險館の関 正雄氏の歌も披露され盛大な新年会となりました。久し振りに、病氣静養中の三宅正代副支部長も着物姿で見えられ、お元気そうでしたが、2月5日に自宅で倒れ、2月17日、不帰の客となりました。(池田亘利)

### ■桜の花と二輪草

今年の観桜会は4月5日(土)に行われ、担当は、佐藤 義高島平ブロック長。天気は晴れ。午前10時30分集合場所の高島平駅に33人が集まりました。世話人の池田幹事長が、旗を持って参加者を誘導、まず初めに都立赤塚公園で記念撮影。それが表紙の写真です。公園内を散策した後、板橋区の花(二輪草)の群生地へ。ここでは何組かの家族連れが、かたまつて花見をしておりました。

一部は歩きで、他の者は小型バスで本日の宴会場「剣閣」へ。更に参加者が増えて、合計35人。宴会の司会は、佐藤 義氏、初めに世話人の中路義雄氏から挨拶があり、続いて壁に貼られた写真、故三宅正代様を偲んで黙禱。カラオケで歌も歌いました。幾人かの会員が美声を競い、また美味い紹興酒も飲みました。初参加の畑井有里枝氏の挨拶もありました。若い方々の参加は、これからも大歓迎いたします。とても有意義な観桜会でした。(徳永勝彦)

### ■第26回定時総会の開催

板橋白門会は、平成26年6月15日(日)、板橋区立文化会館において、第26回定時総会及び懇親会を開催しました。



▲第26回定時総会・懇親会

当日は、学員会本部より関正副会長と長田 繁顧問のご臨席をいただき、会員61人、他4人の合計67人出席の盛会となりました。

#### ☆第一部 定時総会

初めに池田亘利幹事長の司会により、昨年の総会以降に亡くなられた会員4人に対し黙禱。

続いて、石塚支部長の挨拶。

『学員会からのお二人のご出席に感謝いたします。白門の卒業生

は約54万人おりますが、この数は板橋区の人口にほぼ近い数字です。中大の支部は全部で230近く存在し、その内、地域支部は120支部以上あって、全体の半分を占めています。司法試験の改正では受験回数を増やすようですが、私は制限を設けない方が良いと思っています。中大にはアカウンティングスクールというのがあり、国際会計の専門職を養成するとして、駅のすぐそばに校舎があることを新聞の広告で知りました。皆さんと一緒に、中大のことは、できるだけ応援したい。自分の後任には、池田が引き継ぐので、よろしくお願ひいたします』

総会の議長に石塚氏を選出した後、議案の審議に入りました。最後に役員改選に移り、進行役の平山惟美副支部長のもと、新支部長に池田亘利氏、新幹事長に大野正浩氏が選任され、新年度から支部をまとめていくことになりました。

#### ☆第二部 演舞

司会は、松島道昌副支部長に替わり、松島氏紹介の中大卒の舞踊

家・藤間浩菊(本名・宮寺陽子)さん(平13年法卒)と女優・上杉綾さん(平18年法卒)が、地方(小雨&シユンスケさん)に合わせて、華麗な日本舞踊を数曲踊られ、皆うっとりとお見入っていました。



▲藤間浩菊さん(中央)・上杉綾さん(左)・小雨&シユンスケさん(右)

#### ☆第三部 懇親会

懇親会では、三期(六年間)にわたり支部をまとめてくださった石塚輝雄前支部長に対し、新支部長から感謝状が贈呈されました。



▲石塚前支部長の挨拶

その後、ご来賓の関 正学員会副会長から学員会の現状報告(4ページ参照)をいただき、長田 繁顧問の乾杯の音頭で宴会が始まり、新入会員や初参加者の挨拶、カラオケによる歌唱、中大の三つの歌を斉唱した後、菅 東一副支部長によるお開きの言葉で散会となりました。(伊藤 潤)

#### ■創立25周年記念誌の発行

当支部は、昨年、創立25周年を迎え、それに合わせて、12月25日に『創立25周年記念誌』を発行いたしました。

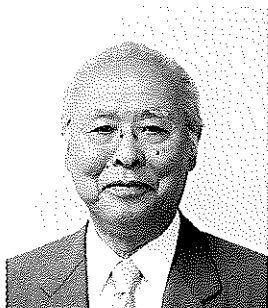
これは、平成10年12月25日に刊行した『板橋区支部10年のあゆみ』に続く、更なる15年間をまとめたもので、全28ページの小冊子です。今年の1月28日に編集委員など10人が集まり、出版を祝うと共に発送作業を行い、支部員全員に配布しました。

次の記念誌の発行がいつになるのか、今からではまだわかりませんが、次の時代を目指して、力を合わせて頑張っていきたいと思っております。(池田亘利)

# 母校のニュース

## ■新理事長に深澤武久氏を 選任

中央大学では、5月26日(月)、理事会を開き、学校法人中央大学理事長に深澤武久(ふかざわ たけひさ)氏を選任しました。任期は、平成26年5月26日から平成29年5月25日まで。



▲深澤武久 理事長  
(写真 中大)

深澤武久氏は、昭和32年法学部を卒業後、弁護士になられ、平成12年最高裁判所判事に就任、平成16年に定年退官され、現在弁護士をされています。

## ■人事院総裁に一宮氏

政府は、3月11日(火)人事院の総裁に、一宮(いちみや)なほみ氏を起用する人事を閣議決定、発令は4月12日付です。

任期は平成29年6月まで。

一宮なほみ氏は、昭和46年法学部を卒業後、裁判官畑を歩まれ、平成25年6月から人事院人事官に任官され、この度、女性では初めて総裁に起用されました。

ちなみに人事院とは、国家公務員法第3条に基づき、公務員の給与、任免など人事行政の事務を司る中央行政機関で、人事官3人で組織され、そのうちのひとりが総裁として命ぜられます。

## ■塩浦慎理選手が男子50 メートル自由形で日本新 記録

4月13日、東京辰巳国際水泳場で開催された第90回日本選手権水泳競技大会で、イトマン東進の塩浦慎理選手(平26法卒)が、男子50メートル自由形で21秒88の日本新記録を樹立しました。

8月24日、豪州のゴールドコーストで行われたパンパシフィック選手権では、男子50メートル自由形で22秒11、5位で入賞しました。

塩浦選手は、平成25年バルセロナ世界選手権の男子メドレー4×100メートルリレーでアンカーとして出場。チームは4位でしたが、1位のアメリカが失格となり、3位入賞したことは、長く知られています。

## ■次期オリリンピックを 目指して

6月15日の板橋支部の総会に出席された関正 正学員会副会長のご挨拶をここに紹介いたします。



▲関正 学員会副会長

『私は中大レスリング部の出身で、ここにおられる佐藤 義さん(注・元中大レスリング選手)のことは良く知っています。』

前のロンドンオリリンピックの時、中大は40人近い選手と役員を送り込み、数々のメダリスト

を生みました。

今度のリオデジャネイロは、何としてでもしつかりした企画を組みたいものです。

ハンドボールの蒲生さん(注・中大卒、蒲生清明・中部大 学教授)が中心となつて、オリリンピックを目指してゴールド・プランの強化策を組んでいます。オリリンピックは、社会に与える影響が大きく、大学・学員でシステムを作り、頑張りたいので、ご支援をお願いします』

## ■箱根駅伝厳しい状況

第89回箱根駅伝(一昨年)は、中大は途中棄権でシード権が取れませんでした。予選会で12位に食い込み、記念大会の拡大枠に救われて、第90回(今年)は出場することができました。

しかし成績は15位と振るわず、再びシード権を逃がし、米春の駅伝は、10月18日(土)の予選会の結果待ちという厳しい状況に置かれています。

伝統ある競技だけに、是非とも出場して欲しいものです。

(文責 伊藤 潤)

# 定時総会の詳細報告

開催日／平成26年6月15日(日)  
会場／板橋区立文化会館

第26回・定時総会が実施されましたので、次のとおり報告いたします。

## ■第一号議案

平成25年度事業報告の件  
(自平成25年4月1日～至平成26年3月31日)

大野事務局長から報告があり、異議なく承認されました。

- ・ 4月6日(土) 観桜会 石神井川桜並木散策 34人
- ・ 4月6日(土) 囲碁同好会 毎月第4土曜定例会 延 120人
- ・ 4月25日(木) ゴルフ同好会 4月と9月に開催 延 49人
- ・ 4月17日(水) パソコン同好会 年7回開催 延 80人
- ・ 5月10日(金) カラオケ同好会 4月と10月に開催 延 36人
- ・ 5月16日(木) 25周年記念案内 状発送 常盤台町会(事) 10人

## ■第二号議案

平成25年度収支決算書並びに25周年事業収支明細書及び監査報告書の件

- ・ 5月17日(金) 幹事会 グリーンホール40号室 30人
  - ・ 6月22日(土) 定時総会および25周年記念祝賀会 東武バンケットホール 60人
  - ・ 7月11日(木) 都区区内支部連絡会会議 駿河台記念館 3人
  - ・ 8月21日(水) 会報編集委員会 菓鴨ルノアール 7人
  - ・ 9月14日(金) 会報 発送作業 文化シャッター研修所 10人
  - ・ 9月29日(木) 板橋区民まつり 打ち合わせ 丸十会議室 9人
  - ・ 10月6日(日) 都区区内支部連絡会総会 目黒雅叙園 2人
  - ・ 10月19日(土) 〆20日(日) 板橋区民まつり参加 延 20人
  - ・ 11月30日(土) 白門レガッタ 戸田ポート場 9人
  - ・ 12月14日(土) 忘年会 会場 笹寿司(赤塚) 29人
  - ・ 1月25日(土) 新年会 板橋区立文化会館 50人
  - ・ 1月28日(火) 会報「25周年記念誌」発送 文化シャッター研修所 10人
- (以上)

(自平成25年4月1日～至平成26年3月31日)

左表のとおり前年度の収支決算書(収入の部・支出の部)並びに25周年事業収支明細書の説明が小宮

会計幹事代理の深山副支部長からなされ、引き続き、監査報告が中路監事により行われて満場これに異議なく、拍手をもって承認可決されました。

## 平成25年度 収支決算書

自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日

収入の部		
科 目	予算額	決算額
年会費	750,000	417,000
協賛費	560,000	434,000
協賛費	295,000	344,000
役員会費	30,000	12,600
常任幹事会費	180,000	87,000
幹事会費	100,000	58,000
会員増強	20,000	0
新年会費	420,000	350,000
親睦会費	150,000	130,000
旅行会費	750,000	0
忘年会費	250,000	174,000
親睦懇話会収入	30,000	19,000
寄附金	50,000	140,000
中大補助	50,000	0
中大訪問	75,000	0
奨励金	0	185
雑収入	0	0
計	3,710,000	2,165,785
前年度繰越金	1,571,522	1,571,522
合 計	5,281,522	3,737,307

## 平成25年度 収支決算書

自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日

支出の部		
科 目	予算額	決算額
役員会費	1,200,000	1,267,000
役員会費	30,000	21,425
常任幹事会費	180,000	87,000
幹事会費	100,000	58,000
新年会費	420,000	276,630
親睦会費	150,000	112,500
旅行会費	750,000	0
忘年会費	250,000	174,000
親睦懇話会	100,000	60,000
同好会補助	40,000	40,000
会員増強費	100,000	9,865
プロック支援	210,000	0
事務局強化費	50,000	15,415
中央大学訪問費	100,000	0
会費作成費	400,000	312,900
施設使用費	100,000	78,480
印刷費	100,000	39,760
ネット管理費	50,000	42,900
通信費	150,000	165,560
贈り物交際費	100,000	96,750
消耗品費	20,000	13,407
支払手数料	20,000	16,335
雑費	5,000	0
予備費	656,522	0
計		2,887,927
次期繰越金		849,380
合 計	5,281,522	3,737,307

## 25周年事業 収支明細書

平成25年4月22日

支出の部		
科 目	予算額	決算額
総会費	595,000	542,400
会費	60,000	161,645
総会費	225,000	218,481
茶賃手土産	60,000	34,445
協賛費	75,000	17,429
雑費	200,000	130,000
会費作成費	100,000	105,000
通信費	40,000	8,730
事務用品	5,000	48,870
記念写真	10,000	
支払手数料	3,000	
支部会費	127,000	
合 計	1,500,000	1,267,000
収入の部		
科 目	予算額	決算額
支差額	500,000	434,000
協賛金	700,000	405,000
協賛金		344,000
お祝い	200,000	140,000
会費作成補助金	100,000	
合 計	1,500,000	1,323,000





# 告知板

## ●板橋区 区民まつり

毎年、板橋区主催の区民まつりにおいて、当支部ではコーナ―を設置、新会員の募集を行っていきます。今年も次の要領にて、コーナ―を用意いたします。

日時 10月18日(土) 19日(日)の2日間

時間 18日 12時～16時  
19日 9時30分～16時

場所 グリーンホール横の会員宅ガレージにコーナ―を設置  
役割 ブロック毎に、当日の当番をお願いします。  
担当 大野正浩(幹事長)

## ●ホームカミングデー

昨年は、台風の影響で中止になりましたが、今年も次の日程で開催する予定です。

日時 10月26日(日)

会場 中大多摩キャンパス

※ 従来、支部では往復の小型バスを用意しておりましたが、今年はありません。各自、会場まで行ってください。

(詳しくは、同封の大学発行の案内書をご覧ください)

## ●秋の旅行

恒例の秋の旅行は、日帰りのバス旅行に決まりました。

「旬のあんこう」

どぶ汁を食する旅」

日時 11月9日(日)

行先 北茨城市平潟町

民宿「篠はら別館」

費用 1万7000円～1万2300円程度(参加人数により決定)

内容 北茨城の漁師の料理、あんこうのどぶ汁は、格別の絶品といわれています。

あんこうは見た目と違って、とても美味な魚で、あんこう汁はお酒ともよく合います。

散策では、五浦岬公園・岡倉天心ゆかりの六角堂・平潟港または那珂湊のさかな市場を回ります。

申込先 川崎力男(副幹事長)  
(旅行担当・川崎力男、鈴木裕、松島道昌)



(詳しくは、同封の案内書をご覧ください)

## ●忘年会

日時 平成26年12月6日(土)・18時より

会場 中華料理「王華」

同封の案内状でお申し込みください。

## ●新年会

日時 平成27年1月24日(土)・18時より

会場 板橋区立文化会館

詳細については、別途案内状を差し上げます。

## ●観桜会

来年案内状を差し上げます。

## ●新入会員(敬称略)

○高宮 廣(たかみや ひろし)

卒業 昭48年・法卒

住所 板橋区板橋

趣味 釣り、園芸

ブロック 板橋

○吉永浩徳(よしなが ひろのり)

卒業 昭21年・文卒

住所 板橋区板橋

趣味 運動、散歩

ブロック 板橋

当支部へようこそ、ご入会を心から歓迎いたします。

## ●訃報

▼本橋 順氏(昭29商卒)

(平成25年11月21日逝去)

▼三宅正代さん(昭47文卒)

(平成26年2月17日逝去)

▼小泉 功氏(昭34経卒)

(平成26年5月12日逝去)

▼前田昌則氏(昭43法卒)

(平成26年7月22日逝去)

謹んでお悔やみ申し上げます。  
(事務局長 徳永勝彦)



## 会費納入のお願い

\* \* \*

当支部の運営は、皆様からの会費の納入により、成り立っております。

今年度の会費をまだ納めていない方は、同封の納付書により納入くださるようお願いいたします。

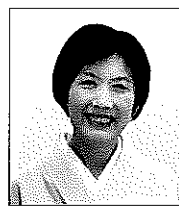
年会費は、3000円です。

(会計幹事 小宮 仁)



### 板橋白門会のマドンナ 三宅正代さんに捧ぐ——

平山惟美



昨年の四月、支部恒例の行事・観桜会を三宅さんは欠席した。

その日、連絡事項があつて彼女の携帯に電話を入れると、「食事が咽を通らなくて・・・」と検査入院する旨の話しだった。

郷里（千葉・香取）に住む二人の実弟を早くにガンで亡くしていた彼女は、自分の検査入院の結果を既に予見していたに相違ない。それだけに壮絶な闘病生活を十ヵ月にも及んで耐えぬいたことに、どんな見舞いの詞を贈ったらよいものか・・・誰にも分らなかつた。口惜しい！

約二十年前、途中で入会した私は、紹介者に伴われて総会の受付で初めて三宅正代さんに対面した。男性ばかりの受付の中に紅一点、和服をキリッと着こなして凛として対応する三宅さんの姿があつた。男性社会の学員会支部は、何処

も女性会員が少ない。板橋区支部もその例にもれず女性会員は一部にも満たない。そんな中で、若くして自ら和服を着付け、あらゆる支部の行事を皆勤して、立居振舞う姿は艶やかであり、まさに支部のマドンナだった。

執行部の役員としてハッキリ物を言えた彼女。役員の他に読書量の豊富なことが縁で、会報の編集委員としても大きく貢献した彼女。会務を離れて、諸会合の後には二次会をセットして有志を募り、自らもマイクを握り、最後まで座を盛り上げた彼女。有志による大相撲観戦や海外旅行には、ご主人同伴で参加するなど、仲睦まじいご夫妻でもあつた。

読書家だった彼女と編集会議の都度、蔵書の貸借を頻繁に行ない、療養中の気晴らしに、五木寛之と乙川優三郎の書籍を届けると、早々に読了して「新年会に返却するのは荷物になって悪いから・・・」と彼女固有の気配りがあつた。今年の六月の総会で返却する腹づもりだったに違いない。しかし彼女は二月一七日に永眠してしまった。ゆつくり休んで下さい。（相談役）

### 新しい形の広報活動の開拓者 前田昌則氏の偉大な功績

伊藤 潤



板橋支部の広報活動である「白門板橋」（紙媒体）と「板橋白門ホームページ」（WEB利用）の両編集長を兼務していた金子益朗氏が、2010年2月16日に急逝。その後、両広報の兼務は厳しすぎるので、広報活動はそれぞれが別の担当で運営され、後者を引き継ぎ、

佐藤道則パソコン同好会会長と山本仁二氏の指導のもとで、その中心的作用を果たしたのが前田昌則（まさのり）氏でした。そもそも「板橋白門ホームページ」は、支部のパソコン同好会の中で生まれ、数人の編集委員がおりましたが、前田氏は、ずば抜けた才能を発揮しました。

原稿の（執筆者）であると同時に、WEBのサーバー上にアップロードする（技術者）が同一人物というのが、ホームページ委員会の基本方針でしたから、その両方を前

田氏はうまく使いこなしました。編集資料を求めて小型カメラで多くの写真を写し、またゴルフ同好会にも参加して、それらをこまめにサーバーにアップロードしておりました。

一度、前田氏が作ったホームページのビジュアルサイトビュー（サイト先の一覧図）を見たことがありますが、実に細かくリンク先が構築されており、圧倒されたことを覚えています。穏健な性格なので、周囲から親しまれました。

前田氏は中大卒業後（昭43年法卒）橋梁建設の働エスイーに入り、副社長まで登りつめました。前田氏の頭脳の中には、橋梁という巨大建築物を造るのと同じレベルで、板橋支部のホームページを作っていたに相違ありません。

支部では、2012年10月に「創立25周年記念事業」の実行組織が練られ、前田氏はそこでWEB広報担当責任者となり、とても喜んでおりましたが、その後、病魔に侵され、7月22日、亡くなられました。72歳。今はただ、ご冥福を祈るばかりです。（副支部長）

中大スポーツのスズメ達

神宮を巣立った  
白門出身プロ野球選手

神宮スズメ 栗原三郎

前監督が不成績の責任を取って辞任したのを受けて、代理監督を務めたヤクルトの小川監督、去年に続いて今年も下位に低迷するも、なんとか首がつながっている。

小川は、習志野高校から投手として入学、日米大学野球の代表にも選ばれたほどの選手だった。大学入学後に外野手に転向、守備は見えないようなお粗末な場面もあったが、打撃を買われてプロに進む。ちやうど大学が多摩移転を祝した年に主将としてリーグ優勝した幸運の持ち主である。

DeNAの高木は、現役時代にスーパーカートリオとして全盛の大洋球団をリードした。現在にはヘッドコーチだが、小川みたいに中畑監督のアトガマにも・・・？

最近では、息子がサッカー選

手として有名である。

現役では、やはり巨人の阿部、六億円プレーヤーといわれ、親まで神宮球場で肩で風を切って歩いていた。

この親子、中大が二部時代、一部に引き上げようとの貴いところざしを持って入学させたとか。見事、三年か四年の時に一部に昇格。しかし、二部時代は古岡投手のワンバンドが取れず、何度スズメ達をガツカリさせたか。

亀井選手は、奈良県の中学から大阪の高校に野球留学したほどの投手。

中大では即、外野手に転向、同時にロッテ球団のキャンプに同行したほど有望視された選手。大学ではクリーン・アップを打つても、いつも凡打。四年になって急成長、リーグ優勝を手土産に巨人に入団。

澤村選手は、いつも一発病で、肝心なところで勝てず、スズメ達はいつもため息。それでも持ち味のスピードが彼を救い、またまた巨人入団。

「肩の力が抜ければ、もっと勝

てるのになあ」というのが、神宮スズメの嘆き。

楽天の美馬、日本ハムの村田は、共にプロ選手としては、小粒の部類。

しかし、美馬は昨年日本シリーズでMVP、今年は味方打線の援護なく、大負け越し。

村田は、一・二軍エレベーター生活だが、一軍の時に見たけれど、ピリツとしてとても気持ち良かった。監督に気に入られれば、思わぬ活躍の場があるかも・・・。

最後に新人の井上。崇徳高校では、三十数本のホームランを打ったもとのスラッガー。日本生命でホームランを量産し、ロッテに入団。いきなりオープン戦で首位打者はよかったが、本番に弱かった。

大学時代から下半身に弱点を持っていたので、太り過ぎて悪化させたのか、心配だ。二、三〇KG位体重を落として出直してもらいたい。

特に、青学出身の井口を早く追い越してくれ、タノム。

(監事)

大相撲七月場所

白門出身力士最新情報

両国スズメ 池田亘利

△豪風(尾車部屋)

本名 成田 旭(平14年卒)

七月(名古屋)場所

西前頭四枚目 九勝六敗

※ 九月(秋)場所では、

豪風の三役昇進は確実。

△片男波親方(元関脇・玉春日、

片男波部屋)

本名 松本良二(平6年卒)

平成20年9月引退

現在、審判委員

△大鳴門親方(元大関・出島

藤島部屋)

本名 出島武春(平8年卒)

平成21年7月引退

現在、審判委員

※ 大相撲七月場所の幕内力士42名の内16名が外国人力士に占められている。日本人力士の横綱誕生はいつ頃になるのだろうか。

(支部長)

# 夏の随筆二題

平山惟美

## ■夏の風物詩「風鈴」

孫の夏休みの自由研究のテーマは、風鈴作りの体験だった。江戸川区篠崎に工房があって、希望者には誰でも自由に楽しく体験できる仕組みになっている。

高熱の炉の前で大汗を流して風鈴作りに挑戦する孫は、楽しさを飛び越えてサウナ風呂を浴びている様相で、その姿の方が可笑しくもあった。

風鈴の内側に絵付けするプロの技は見事なもので、涼味には乏しいが真紅一色に彩色された瓢箪形の風鈴を買って求めたが、「紅色」は魔除けになるといって軒先にさげると、騒音だとして苦情が来るので、室内に吊している。



▲江戸風鈴

## ■夏休みの思い出

69年前の8月15日。私は国民学校の4年生だった。その日は、無論夏休みだったが、

宿題に追われることもなく早朝の草刈りで残した疲れから団扇片手に転た寝をしていた。

草刈りは、戦地の軍馬の食糧に供するもので、刈り取ってから天日干しにして乾燥させて仕上げる。学年数にスライドして4年生は4貫目(約11kg)がノルマで、これが戦時中の学童に課せられた宿題だった。

都会から疎開して来た生徒は草を刈れず、豆を潰して掌は血で染まり、キツイ作業だった。

珍しく敵機の来襲もなく、静かな午過ぎだった。警防団員だった父に郵便局の電信係から緊急連絡が入り、終戦になったらしい大人たちの会話を聞いた。

わが家にラジオはなく、国家の一大事という大きな情報も、国民一人ひとりに行き渡るには多くの時間を要したもので、10歳の小学生には、事の重大さがよく理解できないまま空襲から開放されたことを喜んだようであった。

灯火管制の必要がなくなり、衣服を脱いで手足を自由に伸ばして安眠できるようになったことが、無性にうれしかった。(相談役)

## 中大スポーツ 空手と私

中三川孝幸

私が中大に入学したのは昭和43年の4月です。高校時代はブラバンド部にいましたが、一生続けられる部活をと考え、居合か空手が良いかなと思っておりました。中庭で勧誘にあい道場に行つて稽古風景を見ますと、動いている時の迫力と止まった時の静寂との対比がものすごく、この空手をやってみたいと思いました。入部してみますと中大の空手部は、他大学の空手部と少し考え方が違つており、古来の型を重視していました。

えで動けなくなつてから無意識で出る技が利くというのがあって、更に五分、十分と稽古を続けるわけです。するとこちらも一発入れてやろうと考えに変わり、必死で突いていきます。それでもなかなか入らないで動けなくなつていると、逆エビ固めや腹の上に膝で乗つてきます。苦しまぎれに動く動けるじゃないかと又続けられます。先輩に嘯みついた人もいました。空手は使用する時は試合ではなくて、死に合いだからというこ

船越義珍先生の「空手は見せ物ではないので他人の前で瓦を割つたり、試合をやつたりはしない」との考え方で、毎日の稽古をやつておりました。しかし型だけを重視していると踊りのようではないのかという人もおりますが、組手は止めないでやりますので毎日がアザだらけです。自分達は追い突きと呼んでいる稽古があります。下級生が突いて、上級生がかわすのですが、二、三分やっているとたくたになります。江上師範の考

卒業して20年位は年に数回しか稽古をしなかったのですが、今から20年位前から毎週稽古をやるようになりました。私の一年先輩のお弟子さんなのですが、私達の空手はもとより居合、合気道、柔道、極真会、剛柔流、キックボクシング等何でもやってきた人で私達の仲間の足りないところを教えてくださいます。「握らないで触れる」「重心の移動」「体の使い方」等、毎日が新たな発見の連続です。体の使い方は、武道は皆同じで、ゴルフなんかも同じなんだと思

うこの頃です。(事務局次長)

### 仲町という名称

仲町は、下板橋宿の小名である山中の一部といわれています。山中の中の字に人べんを付して、仲町と呼ばれるようになりました。

東武東上線中板橋駅を出た踏切際に、この山中の名が残る山中稲荷社があります。小さい祠ですが、今も幟が何本か立っています。地元の人々に親しまれているものと思われれます。

## 地名の由来…㊦

### 「仲町」の巻

昔この地域から石神井川にかけて、山中田んぼと呼ばれているものがありましたので、豊作祈願もあつたのかもしれない。

### 専称院

近くに専称院があります。専称院は浄土宗のお寺で、亀鳴山地蔵寺専称院と号し、御本尊は阿弥陀如来です。

鎌倉時代に豊島清光という武将

がいて、行基に七つの地蔵を作らせたという伝説があります。

専称院の前身は豊島村（現在は北区）で、その一つを祀る地蔵堂でした。

浄土宗の専称院となつたのは宝永年間（一七〇四〜一一）に豊島村民、臼倉四郎右衛門の要請を受けた祐天上人によって中興されてからです。祐天上人は芝増上寺や



▲山中稲荷社

目黒の祐天寺の住職を歴任した人です。この頃は荒川沿いにあつたため、寛政十二年（一八〇〇）水害の溺死者の供養塔が建てられるなど、水難者の供養寺としても有名でした。

昭和七年に現在地に移ってきましたが、この場所は江戸初期までは乗蓮寺（現在は赤塚にある）が

あつた所で、その後、同寺の塔頭の香林庵が残っていました。

寺宝としては、室町期の作といわれる木彫りの地蔵尊があります。他には寛政十二年（一八〇〇）の銘がある閻魔大王、上野寛永寺から移された石灯籠や庚申塔などがあります。

明治七年、板橋学校は、この庵を仮校舎として開設されたので、ここが板橋学校教育発祥の地とされています。板橋第一小学校の前身です。

### 饗神社

専称院の近くに饗神社があります。かつて徳川家康が馬を止め休息したとき、跡に残された饗を祀り、くつわ神社と呼ばれています。

江戸時代より「百日咳の神」として信仰され、病人は片方のわらじを持ち帰り、全快しますと新しい一足のわらじを奉納するという習慣があります。

\*\*\*

現在は大山町に山中母子寮があり、栄町に山中児童遊園、川越街道沿いに山中交番があり、その名を残しています。

（文・写真とも 中三川孝幸）

### \* 編集後記 \*



★編集委員の三宅正代さんが亡くなられて、早くも半年の月日が流れました。

編集会議後の飲み会で、笑顔でお酒を酌み交わした思い出が心をよぎり、編集委員は、なかなかそれを忘れることができません。

編集上の師匠でもあつた平山惟美さんに追悼文を書いていただきました。切々たる文章に胸を打たれます。

三宅さんの後任には、徳永勝彦さんが選任されました。支部創立当時のからの会員です。

★栗原三郎さんが、神宮を巣立った中大卒のプロ野球選手達の活躍を記事にまとめてくれました。行間から愛情のこもった学員への温かさがにじみ出てきます。

母校のニュースを栗原さんに代わって書きましたが、慣れない記事の執筆でしたので大変でした。母校があつてこそその支部活動であることを痛感しました。

（伊藤 潤）